

## 第 3 回審議会

# 下水道事業経営戦略の次年度以降の 進行管理

令和3年11月8日

下水道部下水道総務室



くらしイキキ快適下水道

# 目次

1. 進行管理の考え方
2. 審議会での報告内容
3. まとめ

# 進行管理の考え方

※全体の一覧表については別紙

## 《 施策体系一覧 》

4つの基本方向

8つの実現方策

14の施策

34の取組

【基本理念】

健全な下水道事業

市民

市民との協働

広報と地域防災の向上

質の高いサービス

来庁せずに必要な情報・資料を得られる  
来庁せずに申請が出来る

事業運営

効率的な組織運営

ICTの推進  
人材の育成  
事務の改善

持続・快適

財源確保

秩序正しい財政運営の推進  
事業運営に不可欠な財源確保

安心快適な生活環境の実現

効率的かつ計画的な維持修繕計画の推進  
他都市との相互協力体制  
水質規制

危機管理

防災

危機管理体制の充実

豪雨対策

治水対策の推進

老朽化対策

下水道施設の再構築

経営戦略における取組

## 進行管理の考え方

### 《 令和3年度以降の進行管理の流れ 》

各取組に対する局内での進捗評価を決定後、経営審議会にて報告します。審議会での意見等を、進捗評価や次年度の取組策定に反映させます。

時期	内容
前年度	経営戦略に掲げる取組等を実施
当年度 6～7月	局内での進捗評価を決定
<b>当年度 8月</b>	<b>経営審議会</b> <u>(決算報告・進捗管理報告に係る意見等)</u>
当年度 9月	進捗評価の確定
当年度 10～1月	次年度の予算編成作業
当年度 3月	次年度の取組策定

## 《 1. 令和3年度の進捗管理の総括 》

## (1) 令和3年度を取組項目の進行状況

取組項目	○	△	×
34項目	28項目 (82.4%)	1項目 (2.9%)	5項目 (14.7%)

## (凡例)

	数値目標あり	数値目標なし
○	100%	予定とおり達成
△	100%未満	一部達成
×	0%	未実施

34取組項目における「○」「△」「×」の数を集計し、取組の達成度を可視化します

## 審議会での報告内容

### 《 1. 令和3年度の進捗管理の総括 》

#### (2) 重点施策の主な取り組みについて

経営戦略の策定により、様々な課題の解決無くして安定経営を進めることが出来ないことが明らかになりました。

緊急性、重要性の高い課題の解決に向けた施策を「**重点施策**」として位置づけます。

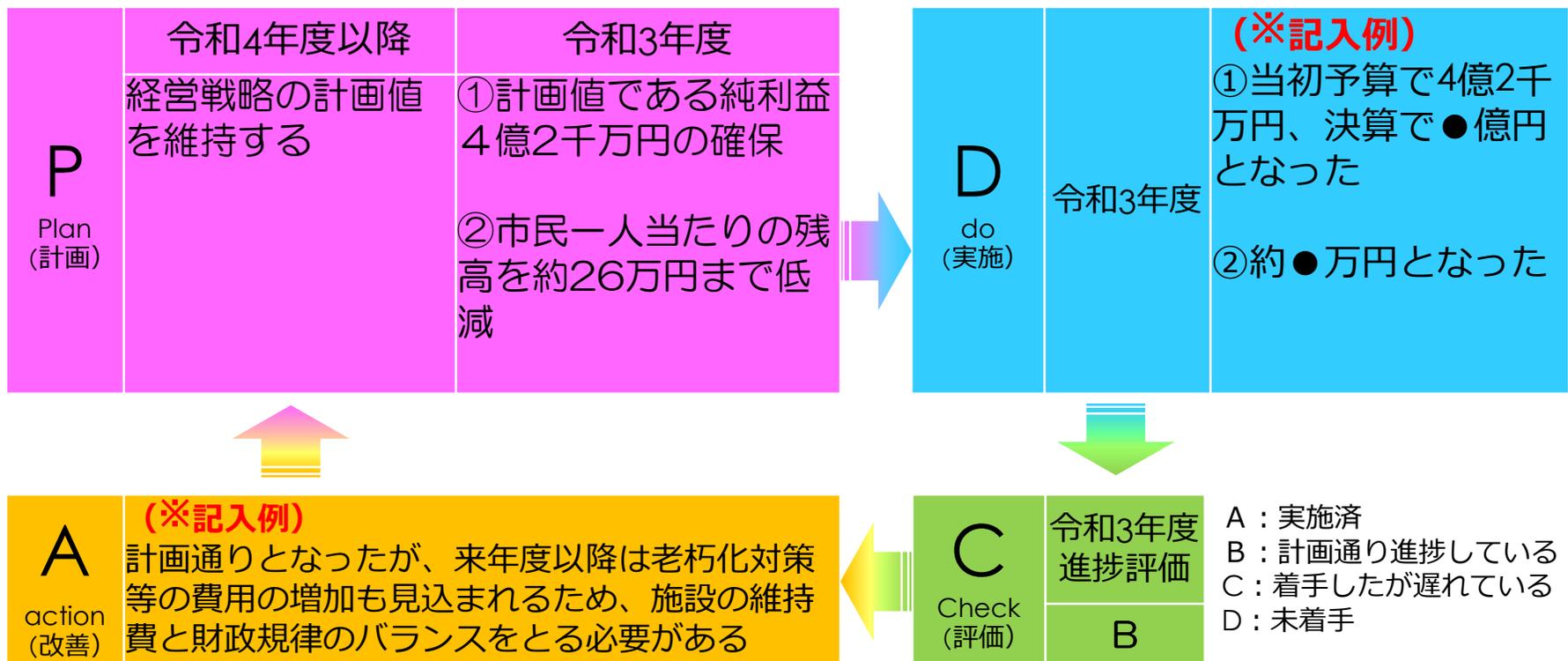
NO.	重点施策内容	重点理由
施策7	秩序正しい財政運営の推進	厳しい資金繰りの中で、効率的な施設の維持管理と事業資金の確保が必要
施策8	事業運営に不可欠な財源確保	
施策9	効率的かつ計画的な維持修繕計画の推進	
施策12	危機管理体制の充実	施設の老朽化や災害に備えるため、ハード面、ソフト面の取組みが必要
施策13	治水対策の推進	
施策14	下水道施設の再構築	

# 審議会での報告内容

※PDCAのD以降は記入例です

No.	実現方策	財源確保	現状課題	令和2年度に策定した経営戦略では、経営状況は当面の間、厳しいながらも使用料改定をすることなく乗り越えられることが分かった ただし、令和13年前後の資金状況を踏まえると、計画値の純利益の維持、改善が必要不可欠となっている
7	施策	秩序正しい財政運営の推進		

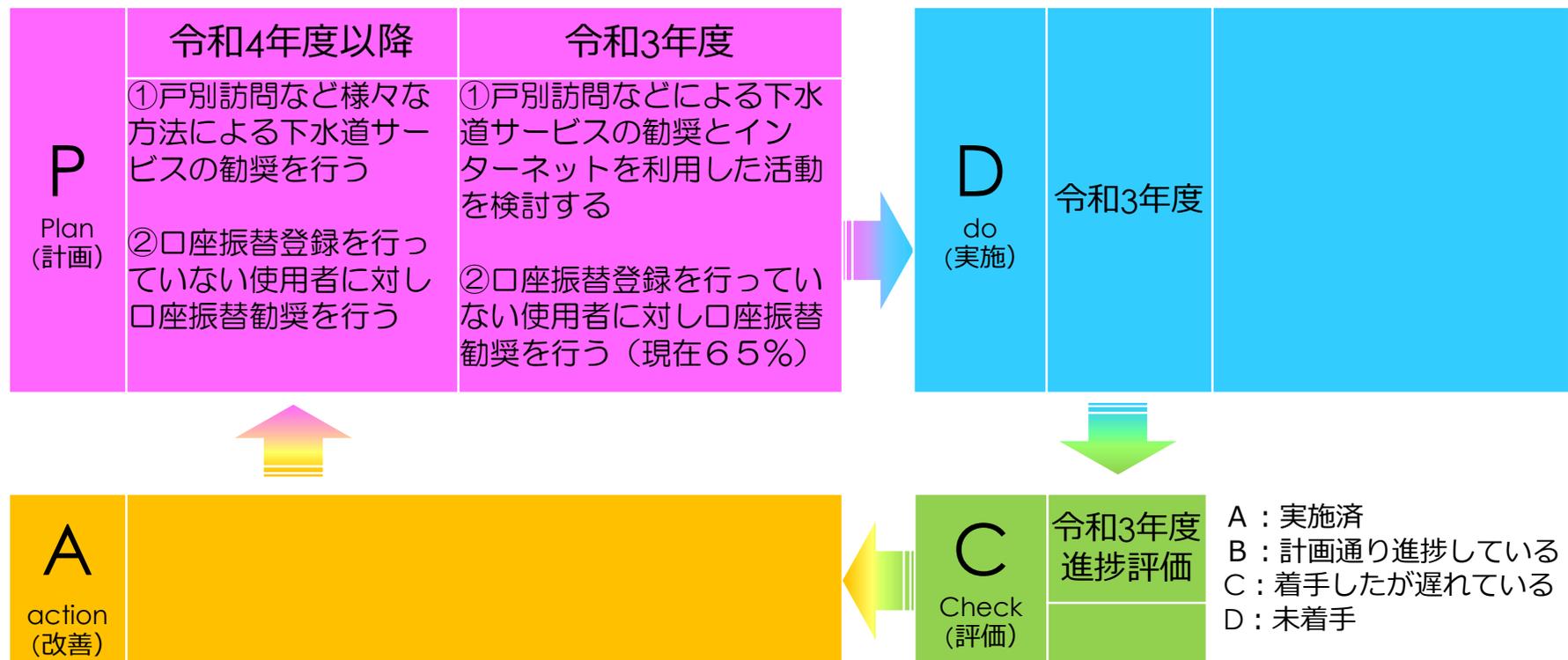
最終目標 安定経営に向けて十分な黒字経営を行いながら借金残高を減少させる



# 審議会での報告内容

No.	実現方策	財源確保	現状課題	令和2年度時点の下水道の利用者の指数である水洗化率は97.7%となり、引き続き100%に向け取り組む 未収金対策においては口座振替利用率の向上により、事務の効率化や安定した使用料収入の確保を進める
8	施策	事業運営に不可欠な財源確保		

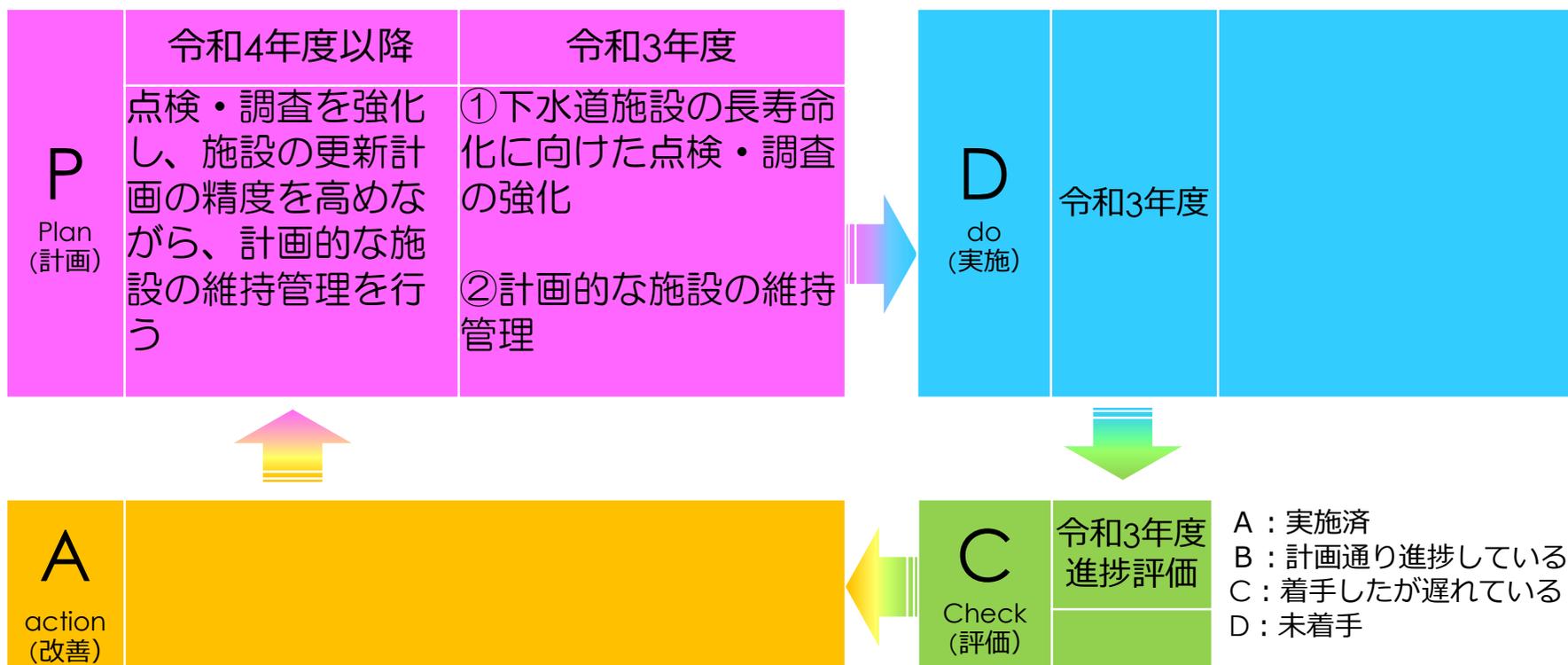
**最終目標** 安定的な使用料収入の確保に向けて、水洗化率100%、口座振替利用率の70%を目指す



# 審議会での報告内容

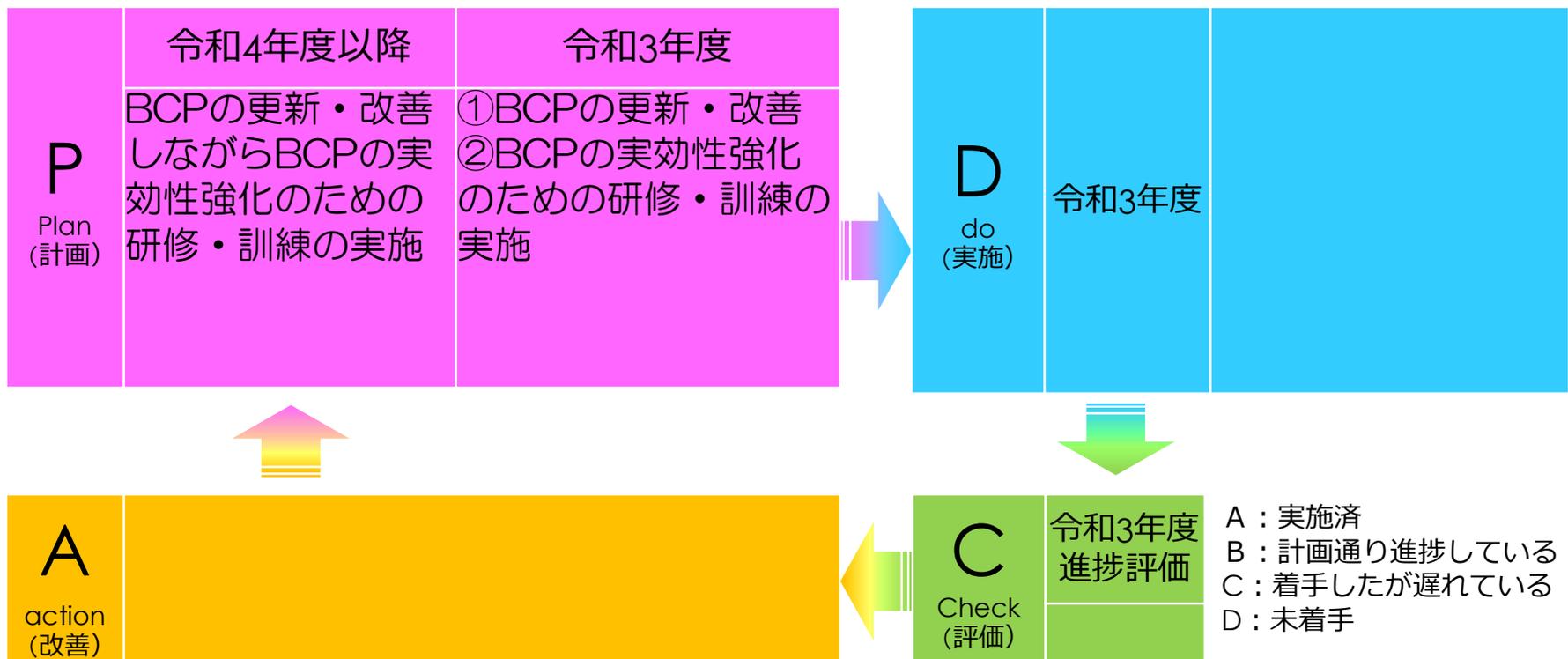
No.	実現方策	安心快適な生活環境の実現	現状課題	昭和24年度より事業着手し、整備を進めてきた下水道施設は老朽化が進行している 経営戦略で持続的な下水道機能を確保するストックマネジメント計画により、使用料改定無く施設の維持管理が出来ることが分かった
9	施策	効率的かつ計画的な維持修繕計画の推進		

最終目標 ストックマネジメントによる持続的な下水道機能を確保



# 審議会での報告内容

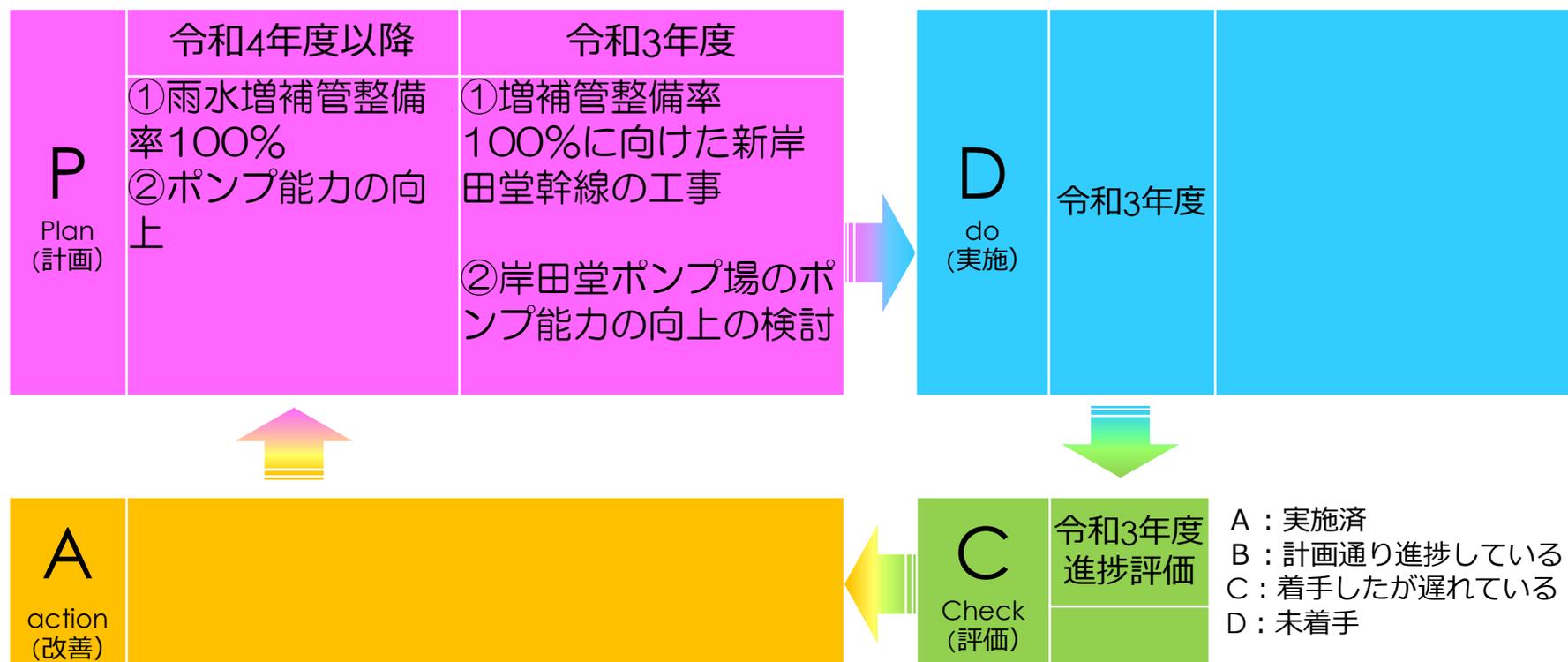
No.	実現方策	防災	現状課題	市の地域防災計画や業務継続計画と整合を図りながら、下水道事業の効率的な災害対応を実施するため、業務継続計画（BCP）を策定している 一方、地震災害や豪雨災害の危険が高まっている中で、更なるBCPの改善やBCPが実行性の強化のための研修や訓練が必要
12	施策	危機管理体制の充実		
最終目標	危機対応能力の向上			



# 審議会での報告内容

No.	実現方策	豪雨対策	現状課題	東大阪市を含む寝屋川流域は、その約3/4が降った雨が自然に河川に流れ込まない内水域のため、河川・下水・流域による総合治水対策に取り組んでいる 第二寝屋川以西の地域は排水能力が弱く、排水能力を高めるための増補管やポンプ能力の向上に取り組んでいる
13	施策	治水対策の推進		

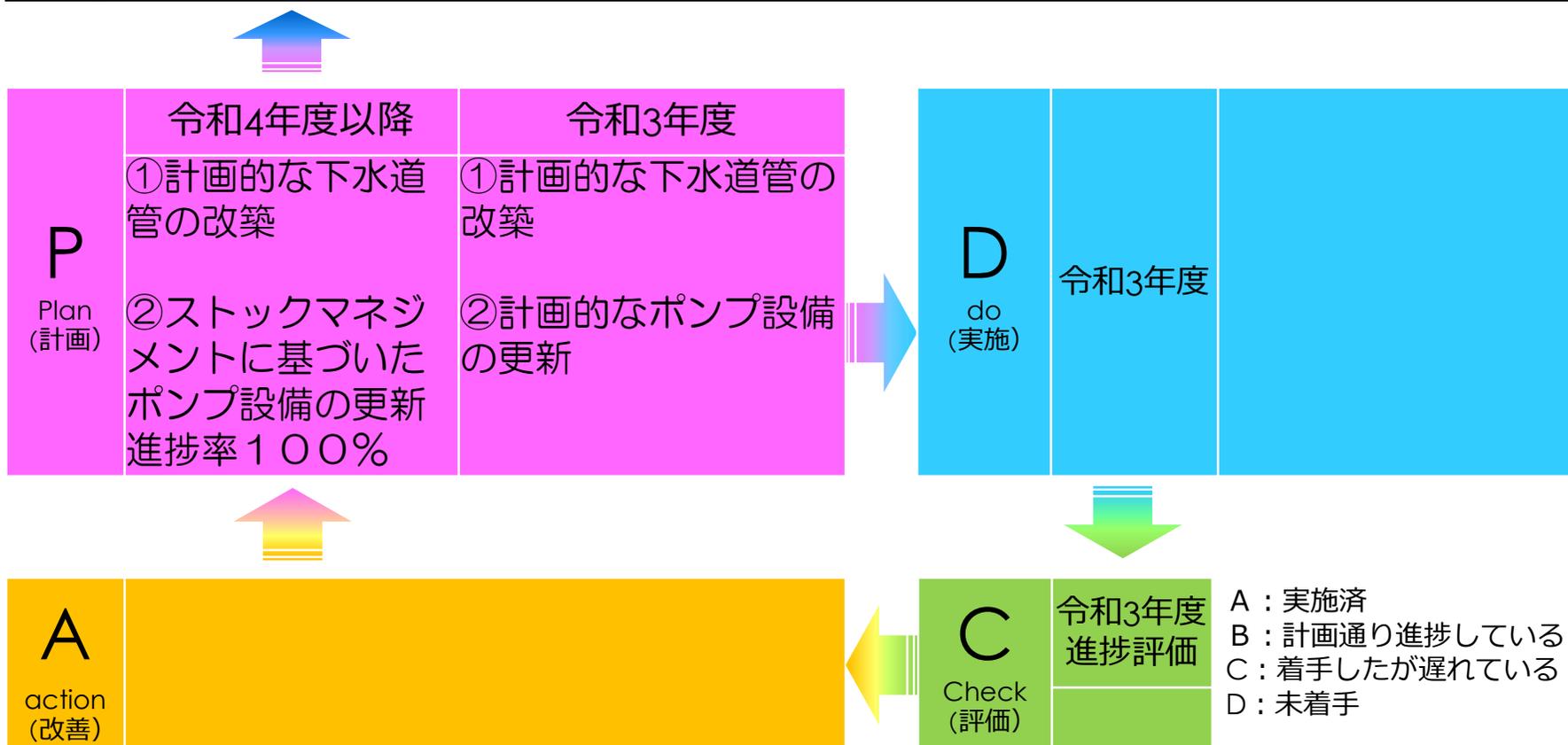
最終目標 浸水被害の軽減



# 審議会での報告内容

No.	実現方策	老朽化対策	現状課題	本市の下水道管約1,160kmのうち約170kmが整備から50年以上経過し、ポンプ設備も機械・電気設備を中心に老朽化が進んでいる 地震等の災害に備えた改築更新や耐震化を効率的に費用の抑制しながら進める必要がある
14	施策	下水道施設の再構築		

**最終目標** 計画的な改築・更新による、災害時の下水道施設の機能確保と、持続可能な下水道事業の実現



# 審議会での報告内容

令和3年度の報告イメージ

## 《 1. 令和3年度の進捗管理の総括 》

### (3) 34取組項目の進行状況評価

令和 3 年度評価

※A：実施済 B：計画通り進捗している C：着手したが遅れている D：未着手

※○：100% △：100%未満 ×：未実施

基本理念	基本方向	実現方策	施策	施策推進に向けた取り組み	最終目標	主要担当所属	進捗	管理指標 指標項目	施策評価・当年度の取組内容
市民	A 市民との協働	1 広報と地域防災の向上	1 幅広い広報媒体の活用	1 出前講座	・下水道事業への理解を得る ・浸水に対するソフト面の対策を強化	計画課	D	出前講座の実施	× コロナ禍の影響で出前講座の調整が出来なかった
				2 幅広い広報媒体の活用	・下水道事業への理解を得る ・浸水に対するソフト面の対策を強化	計画課	D A	市政だよりの活用 YouTubeの活用	○ 浸水対策に関する啓発番組を作成し、ケーブルテレビで放映した。（現在YouTubeで配信中）
				3 ポンプ場の見学等	下水道の目的や仕組みなど、下水道を「見える化」し、関心を得る	下水ポンプ場課	D	限られた職員数の中で、行える見学会を調整	× コロナ禍の影響で社会見学等受入の調整が出来なかった
	B 質の高いサービス	2 来庁せずに必要な情報・資料を得られる	4 透明性のある情報公開（入札）	4 透明性のある情報公開（入札）	入札・契約情報を適切に公開することにより、契約の透明性を確保	総務契約課	B B	必要な情報を即座に公開 分かりやすく掲載	○ 関係課と調整し、HPの公表を継続
				5 下水道事業の説明（PR）	下水道事業の役割や実績に対する市民の理解を得る	全所属	B B	下水道事業の事業報告の掲載 下水道事業のPRを行う	○ HPリニューアル後に方針を決定
				6 申請書類の掲載	全ての申請手続き等に関する資料をHPに掲載	全所属	B B B D	排水設備課 建設課 下水道維持管理課 下水道課課収納課	○ 委託関係の提出書類参考ひな型の掲載
				7 下水道施設の情報公開	市役所へ来庁しなくてもWeb上で下水道台帳を入手できる	下水道維持管理課	C D D	関係機関協議 雨水デジタルデータの作成 Web公開	× 関係機関協議
		3 来庁せずに申請ができる	8 電子申請	8 電子申請	申請手続き関連資料の取得から申請までWeb上で行える（来庁の必要が無い）	全所属	B B D	電子申請システムの運用範囲の決定（システム面） 電子申請システムの運用範囲の決定（法令面） 電子申請システムへの対応業務	○ 現在の届出実績を精査
				9 紙文書の削減	・データの保管場所や引継ぎを改善 ・会議場で共有できるデータをより多く ・印刷製本費の削減	全所属	C B	部内の会議等で、原則紙資料を印刷しない 印刷製本費を前年度比95%以内にする 対外的な資料を出来る限り電子化	○ 経営管理課内の会議で紙資料を印刷しない印刷製本費を前年度比95%以内にする

## 《 1. 令和3年度の進捗管理の総括 》

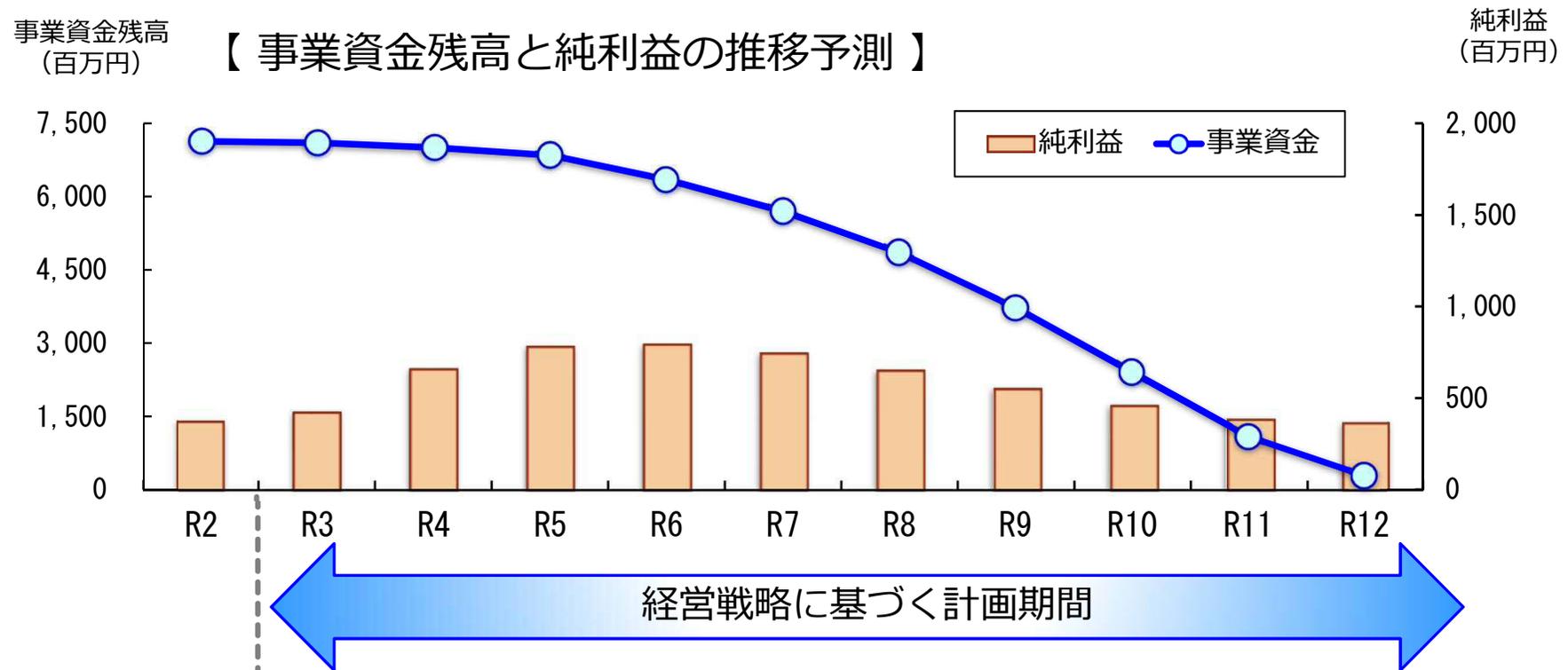
## (4) まとめ

令和3年度は、経営戦略の初年度として各取組を概ね順調に推進しました。・・・・・・・・

令和3年度における  
進捗管理の総括のま  
とめを記載します

# 審議会での報告内容

## 《 2. 経営戦略に基づく財政状況のフォローアップ 》



	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12
事業資金残高	7,129	7,105	7,001	6,846	6,346	5,699	4,851	3,723	2,405	1,081	281
純利益	371	421	657	778	791	743	649	550	458	383	364
備考	現状	計画最初							R10～ 一時借入が必要		計画最終

## 審議会での報告内容

### 《 2. 経営戦略に基づく財政状況のフォローアップ 》

#### 1. 現状における財政状況

事業資金残高は、令和2年度決算において70億円以上あり、安定経営を行っています。

#### 2. 経営戦略期間中における財政状況

経営戦略期間中は、純利益（黒字）を計上していますが、高額な借金の返済や人口減少等による使用料の減収により、事業資金残高は、計画最終年度の令和12年度で3億円以下にまで減少し、厳しい財政状況となる見込みです。

#### 3. 経営戦略期間以降における財政状況

事業資金残高は、借金残高の減少で令和13年度に底打ちした以降は増加に転じるため、下水道使用料の改定を改定することなく、経営が出来る見込みです。

## 《 3. 経営審議会による事業進捗状況評価等 》

**審議会での取組報告を受けて、委員の皆様には事業進  
捗状況等についてご意見をいただきます**

審議会での委員の皆様からのご意見を、取組の進捗  
評価の確定や、次年度以降の事業運営に反映します

## 《 経営戦略の次年度以降の進行管理まとめ 》

- 経営戦略に掲げる投資・財政計画については、取り巻く環境が絶え間なく変化している事象を取り込み常に時点修正を行っていきます。
- 34の各取組に対する進捗評価を決定後、経営審議会にて報告します。審議会での意見等を、進捗評価や次年度の取組策定に反映させます。
- 取組の進行状況や主な課題を明確にするとともに、PDCAサイクルを行うことで、経営戦略に掲げる基本理念や将来像に向けて、どのように対応していくかを示します。